

## 調査等事項報告(団体名: 会派 改革クラブ)

視察(研修)先	群馬県南牧村
視察(研修)日時	令和5年7月12日(水) 14時~16時
視察(研修)項目	加工所併設の「道の駅 なんもく」における地域活性化と運営について
視察(研修)者	結城 正、犬飼 司、阿部正任、高橋卯任
内 容	<p>○説明者 情報観光課 課長: 新井 喜幸 観光係: 小金沢 智史</p> <p>○概要 平成11年に南牧村を何とかしようとして地元女性たちが、地元の味である「しそ巻き」に目をつけ「なんもくかあちゃん本舗」を立ち上げ販売したのがきっかけである。 平成13年には、加工所を改築、地元食材を使った地元に残る味にこだわった加工商品の開発にも取り組んだ。 平成16年に「道の駅 なんもく」がオープンし、農産加工所併設して建てられた。その後、販売所、加工所の増改築、駐車場の拡張整備が様々な交付金や補助事業によって進められた。 平成22年にはNPO法人化され、翌23年には「道の駅 なんもく」の登録認定を受け、現在に至る。総事業費は2億1,500万円。</p> <p>○現地視察 最初は地元女性たちが、人口減少や農業後継者不足、狭小な農地の南牧村に生きがいや活性化、地元の味の伝承などを目的に、小さな加工所の移動販売から始めた事業だった。 都心から2時間弱の自然豊かな溪谷の地にあり、夏場は道の駅敷地内にある南牧川せせらぎで、川遊びをする家族連れなども多い。視察時は近隣の保育園児十数名が川遊びに訪れていた。 店内は地元食材を使った加工食品や地元の直売野菜、特産のコンニャクなどの商品が並んでいた。併設されている食堂もほどよい大きさと、風景を目に食事ができた。 令和4年度(コロナ禍考慮)でも5万9千人が訪れ、5千9百万円の売り上げがあった。村に賑わいと経済的効果ももたらしている。また、この村に多い移住者への雇用の場ともなり、若い女性などが笑顔で接客にあたり、いきいきと働いていた。</p>

視察（研修）先	群馬県南牧村
視察（研修）日時	令和5年7月13日（木） 9時～11時
視察（研修）項目	人口減少地域における持続可能な学校運営と方針について
視察（研修）者	結城 正、犬飼 司、阿部正任、高橋卯任
内 容	<p>○説明者 小池 英明</p> <p>○義務教育学校開校に向けての概要説明  南牧村では少子化に伴い、平成14年まで小中学校各2校ずつあったものを平成17年には現体制の1校ずつとなった。その後も児童生徒は減り続け、令和5年度は小学生9名、中学生17名となっている。</p> <p>村の移住促進政策により、子どもを伴った移住者の転入もあり、令和3年、学校建設検討委員会にて小中一貫となる義務教育学校を新たに建設することとした。</p> <p>その後、学校運営協議会において、この村の特色を活かした学校となり、村外からも南牧村で学びたい、学ばせたいと希望する家族を呼び込めるような教育課程の実現を目指すこととした。</p> <p>学校と保護者や地域の方が一体となり、地域活性化につながる学校建設が令和6年度開校を目指し建設中である。</p>